

## 愛護センターだより

**発行: 敦賀市少年愛護センター**

**住所: 敦賀市東洋町1番1号**

**電話: 0770-23-0189 Fax: 0770-23-0523**

『青少年健全育成都市宣言』 都市: 敦賀市

### 今どきのお金感覚

テレビでもさかんにキャッシュレス決済のコマーシャルを目にするようになりました。スマホやクレジットカードでピッと会計精算ができるので、財布を覗いて小銭を探したり取り出したり、お釣りをもらって財布に入れたりする手間も時間もかからずスピーディ。利用している方も多いのではないのでしょうか。

「お金」が見えなくなりつつある今、子どもに「お金は大切なものだ」ということを改めて話をする必要がありそうです。というのも、次のようなことを耳にするようになりました。

好きなオモチャを買ってほしいとせがむ子に「ママはお金はないよ。お小遣いをためて買おうね」と話したら、「ピッってやればお金いらないじゃん」と一言。

また、友達から「キャリア決済を使うとお金がかからないでゲームができる」と聞いてどんどんゲーム課金。後で、通信料を見てびっくり！

硬貨や紙幣をさわらずに物を買っている様子を見て育つ今の子ども達。『見えないお金』は減ることやなくなることに気がつかない。だから、「カードやスマホがあれば何でも買える」…と勘違いしても不思議ではありません。カードやスマホは、子ども達にとっては



「打ち出の小槌」のように思えるのかも。

子どもがキャッシュレス決済をしたがったときには「これはオモチャじゃないよ。お父さん、お母さんが一生懸命働いてもらった大事なお金が入っているの」と説明が必要でしょう。そうしたときは、『見えないお金』について説明するチャンス！改まってお金の使い方について話す場を設けるのではなく、親子の日常会話が大切です。

小学生に「お家の食費は毎月どれくらい？」と質問すると、母親と買い物をしている子は正解に近い値で答えますが、そうした経験がないと現実離れした金額を答える子もいるそう。ということは、スーパーでもインターネットショッピングでも、子どもに予算を説明しながら品物と金額を比較し、一緒に買い物することが子どもにとっては知識となるということ。ついでに、商品選びのポイントなどを話ながら買い物をすれば、賢いお金の使い方を自然と身に付けていくことでしょう。

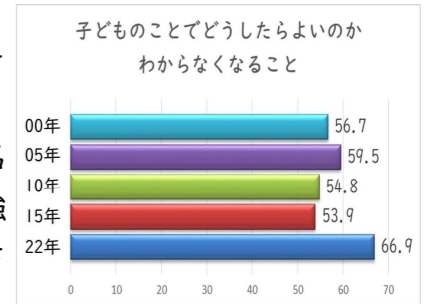
大人でも、電子マネーは、現金よりも使う際の垣根が低くなりがち。ましてや、金銭感覚が未熟な子ども。『見えないお金』について、どうしてこういう仕組みになっているのか、どんな利用法が合っているのかを子どもと一緒に学んでいくことが必要です。



### 子育ては大変だけど…

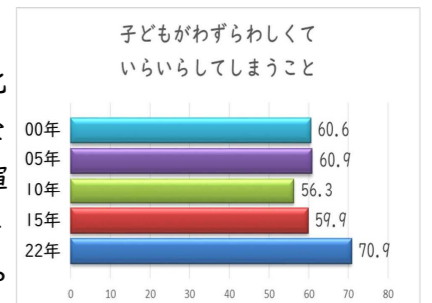
ベネッセ教育総合研究所が2022年3月に生後6ヶ月～6歳（就学前）の乳幼児をもつ保護者4,030名を対象に「第6回幼児の生活アンケート」を実施し、乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態を調査しました。

保護者を対象にした調査ですが、回答者は母親が3,410名（84.6%）。「子育て」＝「母親」という認識がまだまだ根深いようです。このため母親だけを抽出した意識調査が発表されていまして、それについて結果を見てみると…。



第1回の1995年と比べると、仕事をしている母親の割合が95年調査の21.4%に対し今回は44.6%と2倍。また、保育園の就園率が95年調査の10.4%に対し今回40.6%と4倍。環境・意識の両面で大きな変化あるようです。

さらに、スマートフォン等の普及でIT環境が大きく変化しました。これにより、仕事と子育てで時間に余裕がなくなった母親は、簡単にインスタグラムなどで華やかで自由に輝いている女性の情報を知り、子育ての情報も容易に検索できるようになりました。便利になった一方で、我が子の状況や自分の生活と比較するようになり、「できていること・できていないこと」について、不安になったり、不満を抱えたり…。「人と比べる」ことで自己肯定感が下がったり、「うちの子はできているか」と心配になったり、子どもと接する時間そのものを楽しめなくなってしまったのかもしれない。



そんな背景の中、母親は子育てについて、肯定的な感情が減り、否定的な感情が増えていることが明らかになりました。「子どものことでどうしたらよいかわからなくなる」「子どもがわずらわしくていらいらしてしまう」「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う」などの感情を持つ母親がいずれも過半数であり、前回よりも約10～20ポイント増加しています。「母親」自身の



生き方と、育児の現実に否定的な感情を深めているのかもしれない。

そうした母親をサポートしていく必要があるわけですが、しつけや教育の情報について2015年は「友人・知人」が72.0%だったのが、今回は36.0%と半減。家を空けるとき、子どもの面倒をみてくれる人や機関が「いる

（ある）」と回答した比率も7年前に比べて約15ポイント減少しています。コロナ禍の影響もあり、子育て家庭の孤立化が進んでいるようです。ご近所づきあいを含め気楽な信頼関係をつくるのが難しくなり、そのことが母親の不安につながっているのかもしれない。

地域や職場での顔を合わせての言葉かけ。それが子育て家庭の孤立を防ぐ第一歩となるのでしょうか。SNSで多くの人と繋がることはできても、困ったときに子どもをちょっと見てもらう…となると、近くの他人。みんなで子育て世代を応援していきましょう。



## 「蛙化現象」って知ってる？

今、流行っている言葉の一つに「蛙化現象」というものがあります。“好きな人のささいな行動で気持ちが冷めてしまうこと”という意味。この「蛙化現象」という言葉の由来はグリム童話。魔法でカエルの姿にされてしまった王子様が、王女との時間を重ねるうちに魔法が解けて、もとの姿に戻るとい『かえるの王さま』のお話。本来の物語はハッピーエンドですが、「蛙化現象」の方は残念ながら正反対。ただ、ちょっとした言動で一変するということだけが共通点でしょうか…。



この「蛙化現象」について、情報サイト「マッチングアプリ大学」が、男性153名・女性194名を対象に2023年6月～7月にインターネット調査を実施。蛙化してしまう相手の行動については次のようになりました。

男女共に「店員への横柄な態度」が第1位。特に女性には不評で、4人に3人は嫌な思いをします。これは、「性格が悪い・わがまま」に通ずるものがありそうです。「ポイ捨て等マナーが悪い」というのも男女共に上位です。



また、「食べ方が汚い」も男性3位、女性2位と嫌う人が多くいます。

Z世代の意識を調べるためのものですが、これは今の子ども達が周りの人のどんな言動を意識しているのかを教えてくれる調査でもあります。「食べ方」や「性格が悪い・わがまま」については、家庭でしつけておかなければならないことです。もし、わが子が「食べ方がきたない」として嫌われるというのなら、家庭での食べ方に問題があったこととなります。親として毎回の食事時にしっかりとしつけておかなければ、将来子どもに辛い思いをさせてしまいます。食事も含めたマナーや社会の中での



言動など、自分で考えて行動できるようになるまで

は、その判断材料となる知識を子ども達に身に付けさせましょう。いろいろな場面で子どもと一緒に考える時間をつくりましょう。

### 男性が“蛙化”してしまう相手の行動

1位	店員への横柄な態度	… 86人
2位	性格が悪い・わがまま	… 68人
3位	食べ方が汚い	… 66人
4位	ポイ捨て等マナーが悪い	… 65人
5位	相手がおなら・ゲップをした	… 32人
6位	ムダ毛処理をしていない	… 25人
7位	誰かを怒っている姿	… 21人
7位	ナルシスト	… 21人
9位	お金に対してケチ	… 13人
10位	母親／父親と仲良し過ぎる	… 7人
	洋服に無頓着	… 7人

### 女性が“蛙化”してしまう相手の行動

1位	店員への横柄な態度	…140人
2位	食べ方が汚い	…115人
3位	ポイ捨て等マナーが悪い	… 95人
4位	性格が悪い・わがまま	… 71人
5位	ナルシスト	… 35人
6位	お金に対してケチ	… 34人
7位	誰かを怒っている姿	… 30人
8位	相手がおなら・ゲップをした	… 23人
9位	洋服に無頓着	… 21人
10位	車の運転が苦手・下手	… 16人



## 青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○8月18日（金）19:00～

USA ARENAで、いつも1～3歳ぐらいの子どもを連れてきた親がメダルゲームをしているのを見かけます。声かけの対象ではないのですが、子どもと一緒に何か違うことができないのか？何か違うのでは？と悩んでしまいます。



→その方にとって唯一の息抜きなのかも知れません。子ども連れて行くのにふさわしい場所なのか…ということもありますが、「預かってもらう当てもなく、溜まったストレスを発散しないと、どうにかなってしまいそう…」ということも考えられます。家庭によって状況は様々です。子どもも家庭も温かく見守っていきましょう。

○9月2日（土）19:00～

4年ぶりのお祭り、土曜日ということで、たくさんの人出。毎年恒例になっていたカステラ、まるまる焼き、ういろ、はしまきは行列になっていました。アル・プラザ敦賀前には自転車が点字ブロックの上にもで駐輪されており、歩きづらい状態でした。祭り会場から少し離れると人は少なく、薄暗いので、祭り会場だけでなく巡回が必要だと思いました。

○9月18日（月）15:00～

巡回した各所の駐輪場は整列されており、さらにしっかり施錠もされていてよかったと思います。「施錠されていない自転車が増えた」と聞いていたので安心しました。



○9月28日（木）15:00～

USAの受付男性から「16歳は18時まで、18歳は20時までにもかかわらず、高校生が帰らないので帰るように促しても帰ったふりをして、また戻ってくるがあるので、この時間帯を重点的に巡回してほしい」という話を聞いた。

→福井県青少年愛護条例 第42条には「保護者は、特別の事情がある場合を除き、青少年を深夜（午後11時から翌日の午前4時までをいう。）に外出させないように努めなければならない。」とあり、この条例に反すれば「深夜徘徊」として補導の対象となります。東京都には、「16歳未満がゲームセンターなど定められた場所に行く場合、18時～22時の間は保護者の同伴が必要」という条例がありますが、福井県にはこうしたものはありません。店のルールについては、お店の方の指示に従うような指導をすることとなります。各高校生徒指導部には、この件について連絡しました。

○10月4日（水）19:00～

今回の巡回コースではなかったが、ツキノワグマ成獣1頭、幼獣1頭等の目撃情報があり（18時10分頃 山泉、20時30分頃 御名）、市や警察が巡回等の対応に当たったとのこと。郊外において巡回する際は気をつけなければならない時期になりました。

